

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4691100038号
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	高齢者グループホーム金峰やすらぎ館
所在地	鹿児島県南さつま市金峰町宮崎3992番地1 (電話) 0993-58-4075
自己評価作成日	平成23年6月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭の良さ、施設の良さの両面から支えていけるように、笑顔が多いホーム作りに努めている。
・少しでも長く生活していただけるように、職員、関係医療機関と協力して健康管理に努めている。
・生活の様子を家族がしっかりと把握でき、家族の意向が言いやすいように、入居者と家族、職員、事業所との関係づくりに努めている。
・ユニットが繋がっているので、合同での食事やお茶会など賑やかに過ごせる時間がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは金峰山を臨み、周囲には田園が広がり、自然豊かな広々とした環境の中に位置している。ホーム内から農作物の生育を觀賞し、季節感を味わっている。協力医療機関は母体医療法人の病院で、訪問看護も含めた医療連携体制が確立されていて、利用者、家族は安心・安全への配慮がなされた中で生活ができている。新しい管理者の下、職員全体で地域密着型理念作りに取り組み、利用者には役割を持った生活に取り組んでもらうなど、生きがいを持ち、笑いのあるホーム生活を送ってもらえるよう支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員の認知症ケアに対する思いをまとめて理念を作り上げ、共有し実践しようとして取り組んでいる。	全職員で話し合い、職員の思いを含めた地域密着型理念を作成している。管理者は常に申送り時や職員会議で思いを伝え、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会が行う、年5回の奉仕作業へは職員が参加、ホームを利用しての防災会の消火訓練は、日程が合わず、次回に調整するようになっている。他の交流については今後の課題となっている。	自治会に加入し、奉仕作業にも参加している。グランドゴルフ大会への参加や職員の子供とのふれあい、実習生の受け入れもある。保育園、小学校との交流も計画中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣を一緒に散歩することでの住民の方々の認知症に対する理解を得れたらと思っているが、なかなか地域で貢献する場がない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・行政・地域を交えて定期的に開催し、サービスへの意見を聞き、向上に繋げている。	定期的に家族代表、公民館長、行政、民生委員、駐在所職員、消防署員などの参加を得て開催している。災害時に備え、デッキを拡張して避難しやすくしたり、玄関センサーをはずし見守り強化に努めるなどメンバーの意見をサービス改善に繋げている。	

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	待機者の状況や、入居に関しての意見、事故の指導と助言をいただいている。特に緊急性のある方については市と協議して入居を早めている。	運営推進会議にも毎回参加してもらい情報提供や相談ごとにも応じてもらえる対等な協力関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。一切しないように取り組んでいる。玄関の施錠は19:30～7:00は行っている。	身体拘束はしない方向性で取り組んでいる。以前は玄関にセンサーを使用していたが今は見守りを重視し取り除いている。外出傾向の利用者の把握及び近隣住民、警察官との連携、協力を貰っている。	身体拘束については重要事項の中に謳い、ホーム側の方針を示すことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、年1回の勉強会を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、年1回の勉強会を行っている。必要な場合は支援できる状態である。		

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明、運営規定を説明し、納得していただいたうえで契約を締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見を書いてもらえるように設置してはあるが、使用されない。管理者・担当者の両方と家族の関係作りを行い、意見が言いやすい環境作りに努めている。	請求書と一緒に活動状況のコメントを添えて、毎月、送付している。年4回ホーム便りも発行している。利用者の家族はほとんどが県外で家族会をもつ事が困難だがアンケート調査で家族の意見をもらっている。面会時や行事参加の折にも聞いているが、現状は意見や苦情などほとんど無い状態である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を出してもらい、管理者の判断でできるものは決めるが、できないものは、本部の決裁を仰いでいる。	月1回、時間をかけて職員会議をもち、活発な意見交換ができています。居室担当制、デッキの拡張で避難経路の改善、利用者の個性を見てケアする方向性を見出すなど代表者、管理者は職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与と昇給時は人事考課を行い、勤務状況に応じた評価を行っている。やりがいについては、入居者の生活や身体状況が改善することに関わることで、やりがいを見いだせるように努めている。		

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格試験については、最初の1回のみ事業所で受験料を負担している。職員の状況をみて各研修へ参加させている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>薩摩半島地区グループホーム連絡協議会へ参加し、介護職員レベルでの勉強会などで、他事業所との情報を共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して暮らしていただくために、本人や家族、ケアマネより情報収集を行うが、第一は不安なく暮らせるように他者とのコミュニケーション支援を優先している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や契約時に、家庭での状況や、介護している困ったことを傾聴し、入居することへの不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム・法人・関連機関の状況を説明し、特養申請についても説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護施設という考えではなく、グループホーム本来の生活に近づけられるように、作業を一緒に行ったり、食事やお茶の時間に共に語らう時間を設けている。		

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活については毎月報告し、グループホームでできない支援については家族に依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい施設の雰囲気作りはもちろん、外出の機会を増やし、馴染みの場所など行けるように支援している。	彼岸には墓参りに同行、自宅訪問や友人宅に立ち寄るなどふれあいをもっている。買い物、理美容院、道の駅、六月燈などなじみの場所に出かけて関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日の中で、集団で行う活動が数回あり、その中でコミュニケーション支援など取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のため退居された方や、特養へ行かれた方は、ついでが合った時に面会している。家族には、退居後もサービス利用について助言を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族への聞き取りから、本人の生活歴や趣味などを聞いている。意向の表出がない場合は、できる限り配慮した支援に努めている。	家族や本人から聞き取りをして花や野菜作り、調理に参加している。利用者の日常生活、表情や行動、会話の中から思いを把握、職員の気づきをもとに話し合い、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時に家族や担当ケアマネより状況を聞き、契約時に家族から詳細を聞き取り行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活していくなかで、できることやできないこと、やりたいことややりたくないことの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族よりアセスメントしていく中で課題の抽出を行い、スタッフや家族と生活支援への意見交換を行い計画を作成している。	ケース会議やカンファレンスの中でモニタリングを実施、本人や家族の意向や要望、主治医、関係者の意見を取り入れ利用者の状況に即した介護計画になっている。車椅子の利用者を医師、看護師、職員が協力しホーム内でリハビリを実施し歩行器で歩けるようになった例もある。	

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡簿で情報を共有し、月に1回のカンファレンスで計画の見直しの参考になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や課題で、事業所のできる範囲で支援するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	狭い空間・関係で生活していくことがないように、自治会長や民生委員を通じて、地域の一員として参加できることがあれば紹介してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関について家族に確認、訪問看護師との連携により、適時に受診も行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の継続支援ができている。他科受診は家族にお願いしている。往診は2週間に1回、訪問看護師は1週間に2回あり、健康管理ができている。受診結果は電話や面会時、ホーム便りで報告している。	

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状態を日々観察しているなかで、変化が生じた場合は、週2回の訪問日に相談し指示を貰っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の看護師や相談員と情報を交換していく中で、どういう状態までならホームでカバーできるかなど、また、家族や入居者の意見も含め、医療機関と検討している。病院に対しても、支援できることは行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に家族から方針についてのアンケートを頂くが、こちらからの説明としては、医療行為が発生しない限り、重度化してもお世話いたしますと伝えている。疾病により起因する場合は、家族や主治医と相談し、その都度決めている。</p>	<p>入居時、医療連携体制の指針により、説明できている。事例があればその都度、利用者、家族の意向、主治医の指示を受けながら、事業所で対応できる最大のケアを実施する体制はできている。利用者の介護度が高くなると老人保健施設への申請書を出して貰っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年1回救急法の指導を消防隊員より受けている。</p>		

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練（火災・地震想定）と、自治会へ協力依頼はしているが、訓練への参加までに至ってない。</p>	<p>年1回消防署立会いの下、近隣住民の協力も得て、火災、地震想定での避難訓練を実施している。ホーム内訓練も数回実施し、職員の意識を高めている。火災報知機、スプリンクラーの設置ができています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応については、職員会議で再三注意しており努力はしているが、完全に改善されず至らない点がある。	管理者は、「利用者と職員は対等な関係、本人と共に過ごし支え合う関係である。」という認識がまだ足りないと感じており計画的な研修に取り組んでいる。	人権の尊重、接遇の研修などビデオ学習の機会を作り、意識のレベルアップを図られるよう期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動への参加など、いろんな面で促すが、参加するしないは本人の意思を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れが大まかにできており、個々に過ごされる方より、集団でその流れで過ごされている方が殆ど。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節にあった衣類をボックスに準備しているが、衣類の準備はバランスをみて職員が行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、片付けを一緒に行っている。	旬の食材を使った料理を教えてもらったり味付けをしてもらうなど、職員と一緒に調理に参加している。食事をデッキでとったり、ピクニックに出かけたり、外食したりして食欲を高める工夫ができています。会話しながらの和やかな食事風景である。		

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の確認とともに、お茶が嫌いな方には、ゼリーで対応している。好き嫌いには品を変えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人に歯磨きをしていただくが、職員が仕上げ磨きを行っている。義歯は定期的に洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗が増えてきた場合は、声かけの頻度を増やして対応している。ポータブルトイレを購入し夜間のみ使用していただいたり排泄が自立できるよう支援している。	排泄チェック表を参考に利用者の個別性に応じた対応を支援している。利用者のありのままを受け入れ、ポータブル誘導、声掛けの回数を考慮、排泄の自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握と歩行運動にて蠕動運動を促し、お茶を飲まれない方はゼリーにて対応している。		

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	外泊で入浴していない場合は帰園時に入浴していただくこともあるが、基本的に入浴する曜日が決められており、入居者は行事がない限り変更がない。	週3回入浴日を決めて利用者の状態を見ながら一部介助や見守り入浴を支援している。訪問看護師の指示で足浴支援もある。入浴をいやがる利用者にはその状況に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、夜間眠れるように日中は起きていただいているが、浮腫みや昼寝の習慣など、身体状況に応じて居室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の状態については、往診時や訪問看護師へ、その都度伝えており、薬剤の変更や指示については立ち会った職員が連絡簿に記載し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑に出られる方、コーヒーを好まれる方、散歩に出たい方と全員とまではいかないが、できるだけ生活歴に沿った行動ができるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの体制が十分でない、その日の希望で外出支援などできない。花見、遠足、年2回の夕食、彼岸の墓参り、買物、は計画しているので外出支援している。ドライブは天候、スタッフの勤務体制で随時行っている。	日常的には天気の良い日、ホームの周辺を散歩したり、庭でお茶を飲んだりして楽しんでいる。年間行事計画を立て、月1回はドライブ、遠足、花見など外出の機会を持ち、気分転換を図る支援ができている。	

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人でお金を所持し使用されている方が若干名いるが、殆どは職員が管理している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>暑中見舞い、年賀状を利用者の方々が書かれ、家族に出している。贈り物が合った時は、折り返し家族へ電話し本人に取り次いでいる。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>より家庭に近い環境作りに取り組みながら、施設のいい面も活かしている。共用のスペースが少ないながらも、何とか過ごしやすように配慮している。</p>	<p>各居室は日当たりも良く、各部屋に温度計を設置し、室温を調整している。玄関前やウッドデッキにはベンチやテーブルがあり、庭には季節の花や野菜が植えられている。各ユニット毎に畳スペースがあり、利用者同士が会話しながら洗濯物をたたんだりして過ごしている。ユニット間も開放し、利用者は雨天時など長い廊下を散歩コースにして楽しんでいる。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>独りになれる共用のスペースは確保できていない。少人数で畳で過ごせたり、デッキで過ごしたりはされている。</p>			

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>備え付けの物はベッドのみで、他は自宅で使用されていた物や購入されたものを設置し、家族がそれぞれ椅子や飾り物を設置している。</p>	<p>ベッドのみをホームで設置、壁には写真や手作り作品が飾られ、利用者の使い慣れた家具、椅子、ぬいぐるみ、鉢植えの花など持込まれ、居心地良く過ごせる利用者主体の部屋になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要以上の案内は掲示しておらず、極力家庭に近い状態で自立した生活ができるようにしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 高齢者グループホーム金峰やすらぎ館 1ユニット

62	利用者は、その時々 の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない